



題名「カラフルピザパーティー」

♥作品解説♥

4分の1カットずつ、自分の食べたいおいしそうなおピザを作りました。みんな揃ってパーティーのはじまりです。

(スマートキッズジュニア門前仲町第二)

「世界自閉症啓発デーの取り組み～広がる理解の輪」

所長 中村 雅子

世界自閉症啓発デーの4月2日から8日を発達障害啓発週間として、多くの啓発活動が行われました。ここでは、スマートキッズの子どもたちが制作した素敵な作品を中心に、スマートキッズ発達支援研究所の取り組みを紹介します。開催にあたり、今年も多くの皆様のご支援ご協力をいただきました。心より深く感謝申し上げます。

講演会として、2つのテーマを取り上げました。

まず、研究員(帝京大学大学院教職研究科教授)荒巻 恵子氏より、「We Belongってなあに?-子どもにとっての居場所づくり-」をテーマに、社会とのつながりの中で築いていく「子どもたちの居場所」についての内容でした。スマートキッズ放課後等デイサービスを実際に訪問した体験を踏まえて話していただきました。

次に、所長 中村 雅子より、「チームで取り組む包括的性教育-子どもの心とからだの健康を願って-」と題して、国際セクシュアリティ教育ガイダンスの後編をお話しました。

子どもたちの幸せな人生にとって、「包括的性教育」はなくてはならない教育です。指導員や保護者の皆様と連携しながら、どのように進めるかを具体的にお話しました。

次に、子どもたちの絵画展について、ご報告します。

右写真をご参照ください。今年も、1日約16万人が往来する池袋サンシャインで開催しました。

今年も、無印良品サンシャインシティアルパのご理解とご協力により、無償で展示をさせていただきました。

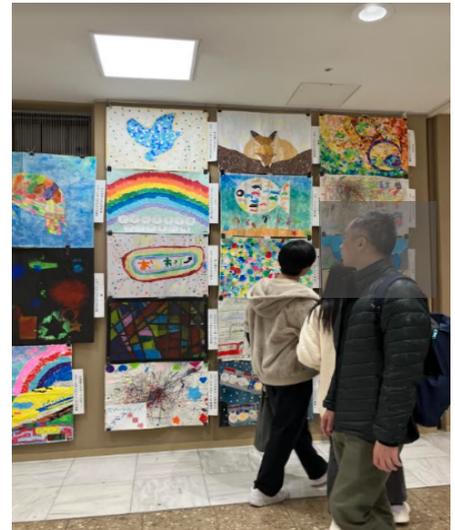
行き交う人々が、立ち止まって、「すごいね!」「きれいだね!」とつぶやきながら、子どもたちの絵をじっと見つめる方々の姿がありました。



子どもたちが絵に込めた思いや力を合わせて作り上げた熱意が
多くの方々に、しっかりと伝わっていました！

また、解説を見ながら、「世界自閉症啓発デーというのはね・・・」と子どもに話して下さった親御さんもいました。このように人から人へと波紋のように広がる理解の輪を大切にしたいと思いました。

子どもたちが心を込めて描いた絵が、多くの人々の心をとらえ、感動の種を残したこと、これこそが、啓発活動の社会的な成果だと感じました。



スマートキッズ発達支援研究所では、自閉症をはじめとする発達障害のある子どもたちが、自分らしさを大切にして活躍する社会をつくるため、これからも、皆様と共に取り組んでまいりたいと思います。



<プロフィール>

スマートキッズ発達支援研究所 所長 中村雅子

私は、全国情緒障害教育研究会会長を5年間、設置校長を15年間務め、大学等で後進の育成に当たるとともに、国立成育医療研究センターの臨床研究員として、プレコンセプションケアの研究にかかわっています。(※全国情緒障害教育研究会は、1968年、自閉症児親の会全国協議会の結成と同年に創立された)

これまで多くの保護者の皆様と出会い、率直なご意見を伺ってきました。その多くが、卒業後、就労し、社会の中で人とかわり、生き生きと生きていくために、十分な教育ができているだろうかという不安でした。当研究所は、教育、医療、心理の経験豊かな専門家集団として、このような問いと真摯に向き合い、より有効な支援プログラムを開発し、その効果的な活用法を開発していきたいと思ひます。また、学校(園)と放課後等デイサービス・児童発達支援等の連携を図り、子どもたちの健康づくりやキャリア形成、遊びや余暇など、豊かな生活づくりにつながる実践を推進してまいります。